京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ　http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*（Atomic Bomb Survivors）

７月１６日（日）「トリニティ核実験とナバホネーションウラン精錬工場汚染水ダム決壊事故」二つの事件を銘記する日ー街頭宣伝　三条河原町

地域から、草の根から、強まる平和行進に　　平　　信行　２
２０２３年平和行進　京都府下を歩き決意も新たに　　小林こうき　４
映画『サイレント・フォールアウト』伊東英朗監督からのメッセージ　５
全国の被爆者手帳所持者数は１１万３千人　７
８月６日　～　今年もキャンドル・ビジル　８
会員から会員へ@みなさんからのお便り紹介　９
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　１１
「京都労演８月例会」『五十四の瞳』
「ウクライナ戦争をどう終わらせるか」
SCRAPBOOK　「被爆体験記第５７集発刊　新日本婦人の会広島県本部」　１２
「被爆２世広がる継承活動」
編集後記　１３
２０２３年８月の行事カレンダー　１４

地域から、草の根から強まる平和行進に

２０２３年国民平和大行進レポート

平　信行(南区)

６５回目となる国民平和大行進。京都でも今年も全自治体をつないで歩きました。私は平和行進京都実行委員会の事務局長を任され、事前の自治体訪問から実際の行進までほぼ１ヶ月間、その任にあたってきました。

■住民のいのちと暮らしを守る自治体に向けて

京都では毎年、平和行進に際して事前に各自治体を訪問して平和行進への協力依頼を行います。京都府と府下市町村で２７の自治体となりますが、ひとつ一つを、地元の平和行進実行委員会のみなさんと一緒に訪問します。今年も６月５日の八幡市を皮切りに１９日の井手町、京田辺市まで丁寧に訪問してきました。訪問に当たっては、平和行進に際しての庁舎や敷地の一部借用など実務的なことから、市町村長、議会議長からの平和行進に対する激励メッセージ、あいさつなどのお願いを行います。また、各自治体がとりくまれている平和施策、事業を紹介していただき、地元のみなさんからの要望も伝えて懇談を行います。

今年の自治体訪問ではこれらに加えて特に二つのことを重視してとりくみました。一つは、国に対して軍事的強化策ではなく話し合いと外交を基調にした平和的施策に転換するよう自治体として求めていただくよう要請したこと。もう一つは、自衛隊からの隊員募集に対して憲法に違反した募集協力業務は行わないよう要請したこと、です。京都平和行進実行委員会名で提出した実際の要請文書には以下のように記述しました。

- 「日本政府による反撃能力（敵基地攻撃能力）保有計画によって他国からの核兵器、生物・化学兵器等も含む報復攻撃を受けることを前提とした、自衛隊基地の「強靭化」計画が明らかにされ、住民の不安と懸念が高まっています。国民の平和と暮らしを守るために、外交で解決する道へ、貴自治体として国に対し強く求めて下さい。」
- 「自衛隊に対し隊員募集のための個人情報提供が本人同意なしに行われている場合、憲法１３条・人格権のうちのプライバシー権保障に基づいて、行わないようにして下さい。」

自治体に対して国の施策について要望すると多くの場合「それは国の権限によることだから」とか「それは国会で議論されるべきことだから」といった理由で曖昧にされることが多いのですが、今や、自衛隊基地の強靭化、自衛隊基地を含む重要土地規制法の具体化、隊員募集の名簿提供要請等々、自治体が直接関わること、関わらざるを得ない事態が生まれているのです。京都にも自衛隊基地や施設は８ヵ所もあります。住民のいのちと暮らしを守るのが使命である地方自治体にとって避けて通ることはできません。そういう思いを込めて今年の平和行進では自治体訪問を行ってきました。

6月19日　京田辺市での訪問行動

今年初めての要請内容であり、どの自治体でもそれほど多くの時間を割いて懇談できるわけではないので、私たちの納得できるような自治体からの回答が寄せられたわけではありません。しかし、これかも続くとりくみに対して重要な一歩を

踏み出したのではないかと思います。自衛隊の隊員募集業務への協力については、一部を除いて、多くの自治体が法の許す範囲で適正な対応が行われているような印象を受けました。

こうした自治体訪問とも関連して、実際の平和行進では、特に自衛隊基地、米軍基地のある地域の行進では、岸田政権の危険な軍事計画に反対する強いアピールが行われました。陸上自衛隊祝園（ほうその）弾薬庫の拡大強化が計画されている京田辺市の平和行進では、そのことの学習会も関連企画として実施されました。

6月24日近鉄新田辺駅前

■勇気づけられる全国通し行進者の配置

今年は４年ぶりに全国通し行進者が配置されました。京都では東京・広島コースの村上厚子さん富山・広島コースの山内金久さんが私たちと一緒に歩かれました。全国通し行進者の配置は、全国の平和行進を励ますと共に、各地の人々をも激励し、勇気づけるものであることをあらためて実感しました。新婦人広島県本部副会長であり、被爆２世の村上厚子さんの行進によって、全国でも京都でも、たくさんの特に女性の行進参加が生まれました。トランペット奏者の山内金久さんは行進の先々でトランペットを演奏し、平和の音色を地域に響かされました。京都「被爆二世・三世の会」では有志で（１０人参加）“村上厚子を歓迎する会”を催し、親しく交歓する機会も持ちました。

村上厚子さん

尚、全国通し行進と合わせて京都府内通し行進者も配置し、京都「被爆二世・三世の会」の小林孝企さんが今年も東京・広島コース（京都府南部コース）を歩かれました。

山内金久さん

■京都全体で１６０９名の行進参加

６月２１日から７月４日までの京都全体の平和行進参加者数は延べ１６０９人でした。昨年を２３人上回りました。昨年まで実際に歩く行進は自粛されていた宇治市・城陽市・久御山町でも今年は復活されました。京丹後市では従来の平和行進日程を一日増やして市内２０㌔に及ぶコースを歩きました。豪雨による警報発令のため亀岡市、舞鶴市では残念ながら行進を中止せざるを得ませんでしたが、お天気さえ恵まれれば、もっと多くのみなさんが行進に参加されているところでした。

八幡市では下校途中の高校生が飛び入りで参加し、一緒に写真撮影に収まることもありました。宇治市では保育所帰りのお母さんが飛び入りで参加し一緒に平和行進を歩くこともありました。各地で沿道からの手振り激励、「頑張って！」の声掛けも例年以上だったようです。

沿道から

■被爆二世三世の活躍

全国通し行進の村上厚子さんも被爆二世、京都府内通し行進者の小林孝企さんも二世、乙訓地域の平和行進責

任者の米重節男さんも、京都市内北区・上京区地域の責任者の井坂博文さんも、もちろん私も。その他たくさんの被爆二世・三世が平和行進を担い、参加する姿がありました。次回に向けて、京都「被爆二世・三世の会」としてより積極的に平和行進に参加し、私たちに相応しい役割を担っていく人があると思いました。

■来年度に向けて

来年度の平和行進に向けて、京都では二つの大きな課題が明らかになっています。

一つは、地方自治体との協力関係を強め、自治体ともども、地域から平和の波、核廃絶のうねりを作りでしていくこと、その中で平和行進を迎えていくことです。上述したように、岸田政権の大軍拡計画は地域の人々のいのちと暮らしに深刻な影響を伴うものです。それに抗する運動が求められています。地域からの草の根からのとりくみを今から強めていく必要があります。

もう一つは若い人々、次の社会を担う世代が積極的に参加する平和行進にしていくことです。平和行進のスタイルも、情報発信の方法も多様に、より魅力あるものに創造し、変貌していく必要があります。あらためて若い人々と一緒にとりくんでいきたいと思います。

2023 年原水爆禁止国民平和大行進
「東京→広島コース」京都府下を歩き決意も新たに

小林こうき(宇治市)

核兵器の廃絶を訴え、８月の広島・長崎をめざして国民平和大行進は、今年で６６回目となります。６月２１日に山科駅前のラクト公園で滋賀県から引継ぎ、私は、昨年に続いて「京都府下の通し行進」となります。この日は、蹴上から京都市役所まで。４年ぶりに配置された全国通し行進者の村上厚子さんが５月６日に東京・夢の島から繋いでこられた横断幕を先頭に京都府内行進のスタートです。繋いできた「２０２３年原水爆禁止国民平和大行進」の横断幕を全国通し行進者の村上厚子さん(広島の被爆二世)、花垣さん（広島で被爆)、三上さん（長崎で体内被曝）で持っての「日本政府は核兵器禁止条約に参加せよ」「核兵器のない世界をつくろう」とアピール。行進２日目は激しい雨の中での行進でしたが、京都市以南８市７町１村を歩き、２６日に奈良市の般若寺で奈良県に引き継ぎました。

今年の行進は、昨年２月のプーチン・ロシアによるウクライナへの軍事侵攻による終わりの見えない戦争。戦争が続く限り消えない「核兵器が使われるのでないか」「ウクライナ国内の原子力発電所は大丈夫」の不安。広島で開催されたＧ７サミットでは「非戦」も「非核」の立場も表明されず「核兵器禁止条約」にまったく触れず「核抑止」を正当化する「広島ビジョン」が出された。日本政府のミサイル配備など大軍拡が進められる状況の中での平和行進。沿道で出迎えてくれる方、高校生が「頑張って、一緒に写真撮ってもらっていいですか」と声かけには励まされました。

１９歳で長崎入市被爆した私の父も１４年前に８４歳で他界していますが、広島・長崎の被爆者の平均年齢は８４．５歳を超しています。被爆の実相をしっかり学び次の世代に引き継ぎ、核兵器のない世界の実現を誓った平和行進でした。

映画『サイレント・フォールアウト』
伊東英朗監督からのメッセージ

映画「サイレントフォールアウト」にご支援頂きました皆様に
この度はご支援ありがとうございました。

１９年前、この事件に出会い、これまで追い続けてきました。
最初は、高知県の多くのマグロ船乗組員が水爆実験で被曝し、亡くなっていたことに驚き、取材が始まりました。
２００４年春、高知県宿毛市の海岸沿いの集落で、取材を始めたときのことは忘れられません。
間近で水爆実験のキノコ雲を目撃したこと、凄まじい音だったこと、死の灰を被ったこと・・・。
しかし、彼らが被曝したことは、誰にも認められず、補償されている人は誰もいませんでした。
その日から、まさか、１９年にわたり取材することになるとは夢にも思っていませんでした。

ローカルでの放送、全国放送、そして映画と様々な形で映像化し、事実を伝えようとしてきました。
しかし、日本国内で、この問題が変化していくことはありませんでした。

READYFOR.JP
映画「X年後」第3弾、被曝問題をテーマにアメリカ上映へ！ - クラドファンディング READYFOR (レディーフォー)

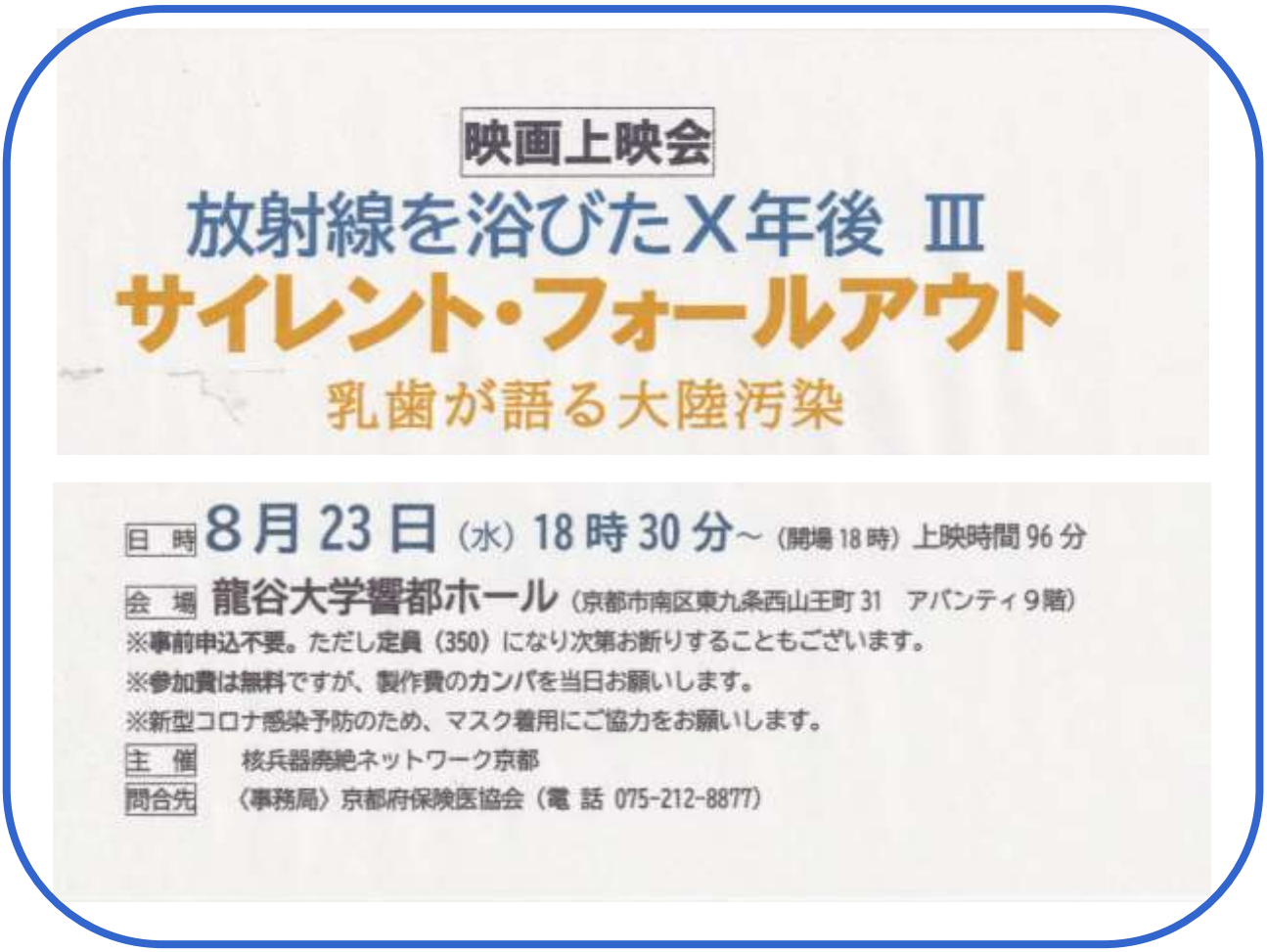
２００８年から、アメリカでの上映が始まり、その後、ボストンやニューヨーク周辺での上映、そして取材をしていく中で「アメリカが変わらなければ、この放射能の問題は変わらない」と考えるようになりました。
５年前、アメリカの人たちに事実を伝え、アメリカの人たちが事実を知り、行動を起こすことで、この問題が動くはずだと決意し、アメリカ大陸の放射能汚染を映画化することにしました。

３年前にはイギリスを取材。
そして、一昨年、クラウドファンディングを行い、さらに文化庁の助成金の申請することで資金の目処をたて、昨年、アメリカを取材。今回、やっと映画が完成しました。
また、今年、６月には、セントルイス、ソルトレイクシティ、セントジョージなどで試写を行いました。
現在、取材費、上映にかかる費用などは、赤字状態で、個人で負担している状態ですが、老後の資金を取り崩しての赤字補てんも限界が見えてきました。

しかし、なんとしても放射能の問題を少しでもいい方向に変えていきたいと思っています。
映画製作や上映活動は、自分自身のわがままであり、寄付をお願いすることは本当に厚かましいお願いです。
本当に心苦しく思っています。
しかし、取り組みに賛同頂き、ご支援頂いたこと、本当にありがとうございます。

映画の上映は、ただの手段でしかありません。
それが目的ではありません。
上映だけではなく、様々なアプローチを考え、工夫し、より多くのアメリカの人に事実を知ってもらいたいと思っています。
できれば、年内に１回の渡米、そして来年春にアメリカでの上映活動ができれば、と考えています。

今回の映画「サイレントフォールアウト」は劇場公開の予定がありません。
皆様による自主上映会にて多くの方にご覧頂きたいと思っております。
自主上映会用の上映媒体は無償　寄付制（ドネーション）で貸し出し致します。
会場費、開催告知などに関わる費用はご負担頂く事になりますが、上映会開催希望がありましたら、お問い合わせください。
１人でも多くの皆様にこの映画を見て頂ける事を心より願っております。



全国の被爆者手帳所持者数は11万3千人

厚労省　２０２３年３月末被爆者データを公表

■厚生労働省から令和５年(2023年)３月末現在の被爆者関連データが公表されました。全国の被爆者健康手帳所持者数は昨年より 5,286 人減少して 113,649 人となりました。2021 年の広島「黒い雨」訴訟で勝訴判決が確定し、原告と同じ状況にあった人たちに広く被爆者手帳が交付されるようになりましたが、それでもなお全国の被爆者数は減少していることになります。

昭和３２年(1957 年)に被爆者手帳の制度が始まって以来最少の人数です。被爆者数の最も多かったのは昭和５５年(1980 年)の 372,264 人ですが、その後減り続けてきています。

京都府の手帳所持者数は６９８人、昨年より４６人少なくなりました。

■全国の被爆者の平均年齢は８５．０１歳、昨年より０．４８歳の上昇です。

■医療特別手当の給付される認定被爆者数は全国合計で５，６５６人です。昨年より４０６人減少し、被爆者数全体に占める割合は５％を切る水準(４．９７％)に止まり厳しい状況が続いています。京都府の認定被爆者数は３９人です。

■介護手当、家族介護手当合計の受給件数(延べ)は全国合計で２３，５４７件で、昨年より１，３０８件の減少です。京都府は８０人、微増でした。

■厚労省の公表するデータでも被爆者の高齢化は顕著であり、原爆症認定制度の抜本的改革含む被爆者援護制度の改善は急務です。健康診断、人間ドッグをより利用しやすくしていくこと、介護保険制度の充実改善を求めていくことも重要になっています。

区分別被爆者数

	2023年3月末	前年差
1号　直接被爆	68, 667	―5, 618
2号　入市被爆	22, 170	－2, 396
3号　救護等被爆	16, 210	2, 778
4号　胎内被爆	6, 602	－50
全国合計	113, 649	－5, 286
京都府	696	－48

被爆者数の推移

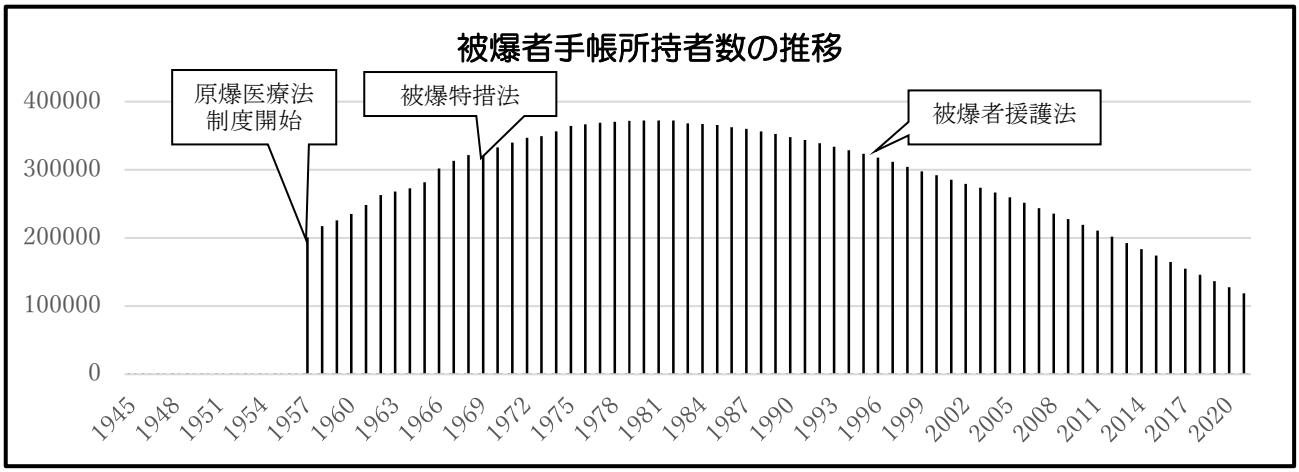
年度	被爆者数	前年差
2000 年末	291, 824	
2001 年末	285, 620	－6, 204
2002 年末	279, 174	－6, 446
2003 年末	273, 918	－5, 256
2004 年末	266, 598	－7, 320
2005 年末	259, 556	－7, 042
2006 年末	251, 834	－7, 722
2007 年末	243, 692	－8, 142
2008 年末	235, 569	－8, 123
2009 年末	227, 565	－8, 004
2010 年末	219, 410	－8, 155
2011 年末	210, 830	－8, 580
2012 年末	201, 779	－9, 051
2013 年末	192, 719	－9, 060
2014 年末	183, 519	－9, 200
2015 年末	174, 080	－9, 439
2016 年末	164, 621	－9, 459
2017 年末	154, 859	－9, 762
2018 年末	145, 844	－9, 015
2019 年末	136, 682	－9, 015
2020 年末	127, 755	－8, 927
2021 年末	118, 935	－8, 820
2022年末	113, 649	－5, 286

都道府県別被爆者数

	人数
北海道	200
青森県	36
岩手県	14
宮城県	84
秋田県	13
山形県	9
福島県	45
茨城県	269
栃木県	133
群馬県	79
埼玉県	1, 322
千葉県	1, 710
東京都	3, 838
神奈川	2, 939
新潟県	59
富山県	33
石川県	51
福井県	40
山梨県	52
長野県	86
岐阜県	233
静岡県	376
愛知県	1, 438
三重県	229
滋賀県	226
京都府	698
大阪府	3, 698
兵庫県	2, 370
奈良県	419
和歌山	144
鳥取県	151
島根県	539
岡山県	938
広島県	14, 086
山口県	1, 678
徳島県	70
香川県	194
愛媛県	432
高知県	77
福岡県	4, 576
佐賀県	604
長崎県	7, 722
熊本県	656
大分県	388
宮崎県	253
鹿児島	380
沖縄県	71
広島市	39, 374
長崎市	20, 617
合　計	113, 649

各種手当受給数

	医療特別手当	特別手当	健康管理手当	介護手当	家族介護手当
全国合計	5, 656人	2, 578人	93, 603人	12, 470人	11, 077人
前年差	－406人	－35人	－13, 429人	－735人	－573人



今年も、静かに
広島、長崎、すべての核犠牲者の霊を慰め
核被害者の救済を願い
この世からの核廃絶を求めて

キャンドル・ビジル

ヒロシマの日　８月６日（日）　午後７時から
三条大橋　東詰め

今年は諸事情から８月９日(水)ナガサキの日はキャンドル・ビジルを行いません。

会員から会員へ　✿　みなさんからのお便り紹介

他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■『語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心』の寄贈

古田京子（八幡市）

いつも会報など、ありがとうございます。

語り継ぐヒロシマ、ナガサキの心(上)(下)をスクールカウンセラーとして勤務している京都西山高等学校に寄贈しました。

寄贈にあたり、出版にいたった経緯や、被爆二世としての私の思いなども、高校側（教頭先生と図書館司書の先生）にお伝えして受け取っていただきました。

高校の方は、早速、生徒に紹介すると同時に、生徒に直接色々と伝えることのできる先生たちに読んでもらうようにアナウンスするとのことです。

若い世代に、原爆がいかに大きな不幸をもたらしたかなど、ちゃんと大切なことを正確に伝え、平和な世界を作っていく主役になってほしいねなど、お話しました。

次の世代にきちんと伝え、受け止めてもらえるように、私にできることを丁寧にやっていきたいと思っています。

写真は真ん中が辻本教頭先生、右が司書教諭の浦島先生です

■京都産業大学で語り部

三山正弘（伏見区）

７月１３日、花垣ルミさんと一緒に京都産業大学へ語り部に行ってきました。３回生の学生のみなさんの真剣な眼差しに、話し手もつい力が入り、上手に伝わったか、理解してもらえたか・・・・いつも反省と次回の機会の作戦も考えております。

語り部被爆者が年々減ってゆく中、若い方に引き継いでいただきたく、さらに頑張って参りたいと思います。ご担当の国際関係学部・クロス京子教授にはメールでお礼を申し上げました。また次の機会もよろしくお願いいたします。

■向日葵に誘われてラジオ体操

井坂博文（北区）

地域のラジオ体操に参加し始めて一週間経ちました。なんとか「三日坊主」にならずに続いている。

それというのも、私のマンションから複数参加され、知り合いの方が体操のインストラクターであり、常連の方々が優しく声を掛けてくださるから引くに引けない。

始めた頃は一輪だけ咲いていた向日葵が🌻二輪開いた。この向日葵畑も体操参加の方がボランティアで整備されたもの。

今日は、ひと月に一回の公園清掃の日。ホウキなど清掃道具は市の補助金で整備されたもの。
会長さんとお話したら、その辺りの話と、あずま屋の改修と眺望悪くしている樹木の伐採、ラジオ塔の改修について京都市への強い要望をお聞きした。なんとかしなければ、と改めて痛感。

■新日本婦人の会の「高校生の原爆の絵」展

平　信行（南区）

京都の新日本婦人の会のみなさんが今年、府下の全支部で「広島基町高校生の描いた原爆の絵」展の開催をとりくまれています。素晴らしいとりくみです。私たちもできる限りの応援を惜しまないつもりです。東山区では６月１０日(土)に今熊野商店街の一画を利用して絵画展が行われました。長岡京市では６月１８日(日)、ＪＲ駅前バンビオ広場、屋外で開催され、多数の来場者を迎えました。京田辺市では６月２４日(土)平和行進の一連の企画の中で催されています。私の地元の南区では７月２２日(土)吉祥院病院会議室をお借りして行われました。伏見区では７月２７日(木)～８月１日(火)に開催される伏見ピースメッセージ展（青少年活動センター）の中で絵画展も計画されています。右京区では今回初めて京都市の後援を得ることができ、右京区役所のロビーを使って原爆パネル展が開催されます（９月１１日～２０日)。その他にも各地の新婦人の支部、班で創意あるとりくみがすすめられています。新婦人の資料を拝見すると１７の支部で２６の企画が予定されていました。

長岡京市での高校生の原爆の絵展

核兵器の廃絶、核被害者救済の運動の原点は被爆の実相を伝え広めることです。高校生の原爆の絵展示会はそのための貴重なとりくみとなることが、全国の経験から示されています。

平和と核廃絶に向けたとりくみが、地域に根差して広がっていくことを願わざるを得ません。

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■京都労演８月例会のご案内

紹介　小林こうき（宇治市）

２０２３年８月例会　文学座公演
『五十四の瞳』
作／鄭義信（チョン　ウイシン）
演出／松本祐子
出演／たかお鷹、　松岡依都美　ほか
公演日時／８月２７日．２８日
会場／呉竹文化センター（近鉄・京阪丹波橋駅西隣）

◇戦後まもなく。瀬戸内海の小さな島の唯一の　学校は、日本人も朝鮮人も分け隔てなく学ぶ　「家島朝鮮初級学校」。突然ＧＨＱが全国の朝鮮人学校閉鎖を宣言。
在日三世の作者・鄭義信ならではの群像劇。 民族の壁を越え、はじける笑いと涙の青春群像。

◇京都労演８月例会は、戦争・平和をテーマとした作品にこだわって取り上げています。
左の案内は、８月、１０月、１２月の例会を紹介しています。ぜひ、この機会にご入会下さい。ご一緒に芝居を楽しみましょう。

京都労演は、会員の運営参加や俳優さんを迎えた交流会の開催など、観劇チケットを買って見に行くお芝居と、京都労演の例会は大きな違いで楽しみでも。今年も７作品（例会）を入会金１，０００円と毎月の会費３，５００円で生の舞台が楽しめます。入会や会費、今年の作品はなど詳しくはこちらから京都労演のホームページで。

■ウクライナ戦争をどう終わらせるか　　東　大作　著

紹介　石角敏明（長岡京市）

ロシアがウクライナ侵略をしてから、１年６カ月が経過しようとしていますが、ロシアが撤退する様子は全く見られません。世界は、この戦争を終わらせるために何をすべきか、日本は何ができるのか、著者は世界の紛争地で見た「日本の果たしてきた貢献」を例に上げながら、提案する。
ウクライナ戦争を終わらせるためには、米国等西側諸国が主張する「民主主義国家」対「専制主義国家」という捉え方ではなく、第二次世界大戦後、世界で確立された「他の主権国家を尊重する」という「最低限の国際ルールを守る国」対「それを守らない国」という図式に持っていくことが肝要と

いう。この図式でいけば、中国や「専制国家」といわれている諸国とも協力できるという、そして、ウクライナとロシアの対話の条件として、ロシアがウクライナ侵攻直後に両者が主張した内容で話し合いの場に着くことを提案している。そして、日本ができる「ウクライナ支援」については、軍備・武器ではなく、「人道的立場」に立った支援を訴える、そして、そのことは隣国のモルドバで実際に行っており、喜ばれ、評価されているという。

後半部分は、「ウクライナ戦争をどう終わらせるのか」ということを乗り越えて、日本のエネルギー問題、そして、幅広い「国際貢献」について筆を進める、「アフガンでの故中村哲氏」の活動を紹介しながら、中東・アフリカで「何故、日本の国際貢献は評価されるのか」を説明し、米国・西欧諸国とは違った「国際貢献」ができると主張する、日米安保に対する考え方の違いはあるけれど、「ロシアのウクライナ侵攻」を終わらせるために「何をすべきか」を考える一助になる書物である。

岩波新書　９２０円＋税

Scrap book

■被爆体験記　第５７集発刊　新日本婦人の会県本部

新日本婦人の会県本部（広島市東区）は、被爆体験記集「木の葉のように焼かれて」の第５７集を発刊した。いずれも広島で原爆被害に遭った被爆者１４人の手記や短歌、証言の聞き書きを掲載し、被爆の実態や戦争の悲惨さを伝えている。

６歳の時に牛田町（現東区）で被爆した世良豊子さん（８４）＝愛知県一宮市＝は、戦後に家族４人で身を寄せた関西地方で「ゲンバク病がうつる」といわれのない差別を受けた経験をつづった。そうした中で、避難先の旅館で出た白米の味を忘れられず、被爆から７４年後に妹と感謝を伝えに行ったという。

村山季美枝さん（８３）＝東京都文京区＝は自身の「あの日」の記憶と平和への思いを７首の短歌に込めた。ロシアのウクライナ侵攻に触れた歌では「泣きながら　避難してゆく幼子に　５歳の吾（われ）の　ヒロシマ重なる」と詠んでいる。

同会県本部は１９６４年からほぼ毎年、体験記集を発行してきた。編集委員会の平岡澄代さん（７１）は「核兵器廃絶を願う被爆者の思いを知ってほしい」と話している。Ｂ５判、８０ページ。２千部印刷し、１冊５００円（送料別）で販売する。

県本部☎０８２（２６３）０４０２。

（２０２３年７月２０日　中國新聞）

■被爆２世広がる継承活動　広島の「語ろう会」結成１年　講話会や研修会　積極企画

広島市の被爆２世たちでつくる「ヒバク２世の語ろう会」が結成から１年を迎え、被爆体験継承活動の裾野を広げている。家族の体験を語る講話会を企画したり、研修会を開いて人前で話す練習をしたり。多くは市が養成する家族伝承者制度の研修生で、自発的な研さんの機会となっているほか、制度の応募条件を満たさない人が活動する場でもある。

今月上旬、中区の原爆資料館であった研修会に１５人が参加した。家族伝承者の研修生５人が、講話原稿の書き方や被爆後の惨状が描かれた絵の見せ方などを解説。「被爆者が歩いた経路を地図上で見せると分かりやすい」と助言した。

メンバー２２人は４０～８０代の主婦や会社員、退職者など多様だ。研修会を中区と安佐北区でそれぞれ月１回開く。父母らの被爆体験をまとめた原稿を持ち寄って音読の実習をしたり、文章構成を議論したりして「デビュー」の準備を進める。

永井幸雄さん（６８）＝中区＝は爆心地から１・７キロで被爆した父幸四朗さん（９６）の体験を伝えるため研修中だ。金融機関に勤めながら全国を転勤。広島に帰郷し「家族の体験と向き合いたい」との思いを強めていた時、市の制度を知った。だが「何から手をつければいいのか」。同会にも参加し、助言を受けて原稿を仕上げた。「被爆の惨状を熱心に伝えようとする人たちに刺激を受けた」と話す。

市の家族伝承者制度は被爆体験を持つ親族が存命であることを条件とする。同会では、家族が亡くなったり体験の聞き取りが難しくなったりして研修を受ける資格のない人も活動している。３月には被爆２世の３人が講話会を初開催し、亡き父母の体験を語った。

同会は２８日に井口公民館（西区）でワークショップ、９月２４日に原爆資料館で講話会を計画。代表の佐々木佐久子さん（７３）＝西区＝は「前向きに活動しようとする被爆２、３世が増えていると感じる。知識や経験を共有し長く続けたい」と力を込める。

（２０２３年７月１９日　中國新聞）

編集後記

▼６月２１日(水)の通常国会会期末に向けて悪法の数々が駆け込まれるように強行成立されていきました。「こんな国でいいのか」と思われるほどの情けなく腹立たしい国会の有り様でした。しかしいま国の政治や制度の実態を見ていると、強行された悪法がその通り執行されるのか？と首を傾げたくなるような“惨状”が生じています。マイナカードと健康保険証の一体化、もはや誰も決められた通りにはいかないと思っているのではないでしょうか。大軍拡・自衛隊の強靭化と政治が暴走する一方で自衛隊員は集まらない、退職者も後を絶たない、足元から揺らいでいる事態は深刻です。原発再稼働年限の延長・・・一体誰が本気で責任を持てるのか？汚染水海洋放出計画も国際的にも四面楚歌ではないか、等々と。その結果として岸田政権の支持率は最低レベルにまで落ちこんでしまいました。国会で悪法が成立しても、その通りにはいかない矛盾が大きく存在し、また悪法を許さない私たちの運動があります。そこに確信を持ちたいものです。(平)

２０２３年8月（はづき）行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
８	１	火	平和のための京都の戦争展　→　８月６日まで（長浜バイオ大学京都キャンパス）
	２	水	
	３	木	
	４	金	原水禁世界大会・国際会議（広島）　キンカン行動
	５	土	原水禁世界大会・国際会議（広島）
	６	日	広島平和記念式典 原水禁世界大会・ヒロシマデー集会 ヒロシマの日　キャンドル・ビジル（１９時・三条大橋東詰）　６・９行動
	７	月	原水禁世界大会・長崎・開会総会
	８	火	原水禁世界大会・長崎・分科会 立秋
	９	水	長崎平和祈念式典 原水禁世界大会・ナガサキデー・閉会総会　６・９行動
	１０	木	
	１１	金	山の日 NPT 再検討会議第１回準備委員会最終日　キンカン行動
	１２	土	
	１３	日	
	１４	月	
	１５	火	終戦記念日
	１６	水	京都五山送り火
	１７	木	
	１８	金	キンカン行動
	１９	土	安保法制廃止をめざす１９日行動
	２０	日	
	２１	月	
	２２	火	
	２３	水	映画『放射線を浴びたＸ年後Ⅲ・サイレント・フォールアウト』上映会 シベリアデー（スターリンが強制抑留秘密指令を発したとされる日）
	２４	木	京都「被爆二世・三世の会」８月例会（１８時３０分・ラボール京都）
	２５	金	キンカン行動
	２６	土	
	２７	日	
	２８	月	
	２９	火	
	３０	水	
	３１	木	二百十日